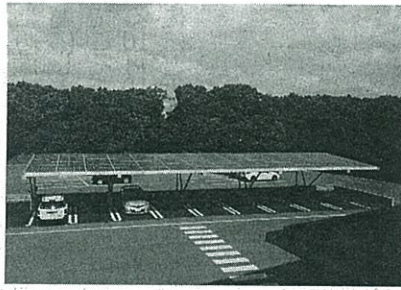


1本ネットワーク

東海・信越・北陸

JAPAN METAL
Local News

工業 瀧上 太陽光発電を増強 本社で年30万キロワット確保



【平田】瀧上工業は、発電設備を増強する。半田市の本社で太陽光

本社事務所の来客用駐車場に新設した屋根に太陽光発電パネルを設置したほか、本社事務所の屋上などへの設置も予定しており、合わせて最大発電能力は0.25メガワットで、年間約30万キロワット(毎時)

開始。設置面積は7600平方メートルで、最大発電能力は0.5メガワット、年間約60万キロワット(毎時)の発電量。今回は、本社事務所前の来客用駐車場に屋根を設置したことに伴い、その屋根(1600平方メートル)を活用して太陽光パネルを設置。あわせて今後、本社事務所

の発電量を確保する計画。第二工場敷地内で行っている太陽光発電とあわせ、環境に配慮した経営をさらに強化していく。

同社は2013年6月、第二工場にある遊休地の有効活用を図るとともに、環境に配慮した経営を推進するため、太陽光発電パネルを設置し、売電事業を開始。設置面積は7600平方メートルで、最大発電能力は0.5メガワット、年間約60万キロワット(毎時)の発電量。今回は、本社事務所前の来客用駐車場に屋根を設置したことに伴い、その屋根(1600平方メートル)を活用して太陽光パネルを設置。あわせて今後、本社事務所

「二番で結構。瀧上工業が120周年の記念として、さまざまなか所で掲げたキャッチコピーだ。同社の創設者である瀧上定次郎の父・瀧上卯内が得た人生哲学だが、一番を目指しながらもそれにこだわらない、真面目に鉄と向かい合い続けた同社の哲学ともなっている。

創業120周年、哲学受け継ぐ



キャッチコピーを掲載した広告

学として、連続と語り継がれてきた。この言葉の真意について瀧上晶義社長は、「決して二番で満足するということではない。一番になるためのチャレンジをしなさい」と語り、このキャッチコピーは4月16日発行の全国紙の中部版に掲載したところ、各所より好評なため、各種広告にも活用しており、外向きの宣伝としてのインパクトも強い。瀧上社長は「社員にも社会における当社への位置付けや、その仕事の大切さをわかってほしいという願いを込めて、社内外に発信したものだ」という。120周年を迎えたことを機に、創業当初から今に続く、会社の哲学を再認識する意味も込めた「二番で結構」のキャッチコピー。橋梁や建築鉄骨などの鋼構造物の製作を通じて、この国のインフラ整備に貢献してきた同社は、創業当初から受け継がれた精神と高い技術力を次の未来に受け継いでいく。